



START
真鶴駅

1

ふるさとの碑
真鶴町のことが記された石碑。駅の待合所付近に設置されている。



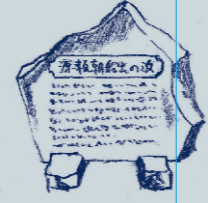
2

ホセイン・ゴルバの作品
(瀧門寺)
石の棺をイメージした本作品は、生と死を内包する道を示している。



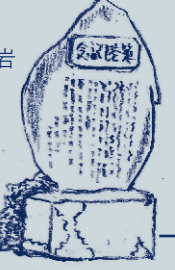
3

源頼朝 船出の浜案内板 / 源頼朝 開帆處の碑
鎌倉幕府を開く前に、真鶴から船出した源頼朝にまつわる二つの石造物。



4

築港記念の碑
1934年に築港された岩漁港の記念碑。



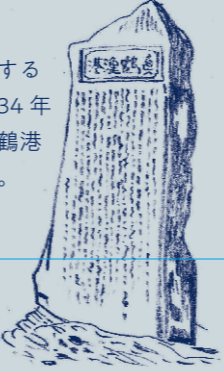
5

どこかの子
(コミュニティ真鶴)
こぼれ落ちる砂のように流れる時間を遠い国の小さな人形に重ねている。



6

真鶴漁港の碑
本小松石を運搬する要港として、1934年に築港された真鶴港を記念した石碑。



7

七つの星
真鶴港で行われる、貴船まつりの鹿島踊りに使われる柄杓が、石の祠の中に彫られた作品。



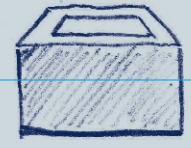
8

石の時間
本小松石に11の窪みが穿たれている。それは採石の際につくられる矢穴にも似ている。



9

海へ
山から海へ何かを捧げ、海からの何ものかを待つ作品。



真鶴 石めぐりマップ
真鶴にある石碑と、「真鶴町石の彫刻祭」の作品。石にまつわる11か所をめぐる、石のまち・真鶴ならではのコースを歩こう！

GOAL
真鶴駅

11

小松石の時間
草木や土に埋もれていきながら、時間を可視化していく作品。毎年1枚写真を撮ることにより、定点観測される。



8

夫婦とり
石の広場に鳥の形のような小松石が向かい合っている。その奥には相模湾が見渡せる。



9

坂を上る
階段



11

石の広場



10

石の彫刻祭 作品群
(ケーブル真鶴)



ビッグママ
石の彫刻祭で、公開制作が行われた作品。力強くも温かい本小松石が表現されている。



マツル
モチーフは梟、荒波、豊穡、人魚、岩屋、真鶴。

創知彫刻 2020 (石の遊具)
触れることで小松石と会話することができる。見た目はまるですべり台のよう。

Love Stone Project-Manazuru
彫刻された石のハートを、ワークショップでみんなで磨き完成させた作品。

バス 中川一政美術館 (バス停) 19分

平日	8:54	9:15	9:52	10:52	11:40	12:37	13:37	13:50	14:37	15:32	15:50	
土日祝	8:37	9:15	9:52	10:52	11:00	11:57	13:37	13:50	14:37	15:32	15:50	16:32

→伊豆箱根バス →真鶴町コミュニティバス

ハイキング中のお問い合わせはこちら
 (一社) 真鶴町観光協会 0465-68-2543
 受付時間 9:30-15:00



駅からハイキングアンケートのお願い

「駅からハイキング」の品質向上に役立てるため、ご参加いただいたお客さまにアンケートを実施しています。是非ご協力をお願いいたします。



お手持ちの携帯電話ならびにスマートフォンで右記二次元コードを読み取ってください。



石のまち・真鶴を歩く

真鶴を歩くと、まちのいたるところに石を使っていることがわかります。石垣やベンチ、看板、道祖神……。真鶴の日常には、石の存在が当たり前のようにあるのです。それは、古くから真鶴駅の北側にある小松山で、「本小松石」という石が採れるからです。

鎌倉時代には、鎌倉のまちの建設のために多くの本小松石が使われ、江戸時代にも、江戸城の築城や品川台場の築造のために、真鶴港から江戸まで本小松石が船で運び出されました。当時、石屋は命懸け。人力で崖から石を切り出し、山から港まで運び、船に乗せて運び出していました。

今でも真鶴には20以上の石材業者があります。この地図は、そんな石のまち・真鶴に点在する、石造物を巡る地図です。

真鶴
石めぐり
マップ



石垣の
積み方
いろいろ

真鶴中にある石垣。少しでも積み方を知っていると、まち歩きがもっと楽しくなるはず。

けんち
間知積み

規格化された石を積み重ねた、一番オーソドックスな積み方。



こっぴ
木端積み

制作の過程で出た端材「木端石」を積み上げている。



乱積み

切り出した石をそのまま積む。隙間から植物が生えることも。



布積み

長方形の石をレンガのように積み上げている。



写真提供：真鶴町



写真提供：真鶴町



生きている石、
本小松石

本小松石の特徴は、目が詰まっているので欠けにくく、磨くとなめらかでツヤのある表面になることです。そのため墓石として扱いやすく、高級墓石の一つといわれています。色合いは、灰色、青色、赤褐色が混じり合っています。また、時間が経つにつれて表面に茶色い錆が出ることもあり、まるで石が生きているようにも感じられることから、「良い老け」と表現されています。

世界近代彫刻
シンポジウム

今から約60年前、本小松石が世界的に注目されたのが、一九六三年に真鶴で開催された、日本初の野外芸術祭「世界近代彫刻シンポジウム」です。この芸術祭では世界各国から一流の彫刻家が集い、3ヶ月にわたる本小松石で作品を制作しました。その作品は翌年の東京オリンピックの会場の近くで展示され、世界中の人々が本小松石に触れる機会となりました。

真鶴町
石の彫刻祭

二〇二〇年に開催予定だった東京オリンピック・パラリンピックに合わせて、「世界近代彫刻シンポジウム」を再現すべく企画されたのが、「真鶴町石の彫刻祭」です。11名の作家たちが本小松石を使って彫刻作品を制作し、オリンピックと同様に、一年遅れて二〇二一年に開催されました。現在は真鶴の海岸やお林など、町内のさまざまな場所に設置されています。